



## 「天国は本当に素晴らしい所」

～天国に行くまでに、私たちがしなければならないこと～

「見よ、私は新しい天と新しい地を創造する。先にあったことが思い出されることはなく、心に上ることもない。…そこにはもはや、数日の命の乳飲み子も、自らの寿命を満たさない老人もいなくなる。百歳で死ぬ人は若者とされ、百歳にならないで死ぬ者は呪われた者とされる。…彼らは無駄に労することもなく、産んだ子を災いにさらすこともない。彼らは、主に祝福された者の子孫となり、その末裔も彼らと共にいる。…狼と小羊は共に草を食み、獅子は牛のようにわらを食べ、蛇は塵を食べ物とし、私の聖なる山のどこにおいても、これらは危害を加えることも、滅ぼすこともない。—主は言われる。」イザヤ65章17,20,23-25節 [協会訳]

本日午後12時半より当教会の納骨堂前にて「秋の召天者記念礼拝」を行います。

天にお送りした方々のことを想い、何よりも私たちは永遠の存在であり、永遠の世界をお開き下さったお方を心から礼拝するひと時です。

主イエス様はヨハネ16章33節で「あなたがたは、この世では悩み(苦難)がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」と言われました。この地上にいる私たちにそれぞれに使命が与えられています。その使命を果たすために、この地上で生を与えられています。そして、その使命を果たしたならば、主は私たちを永遠の御国に召してくださいませ。私たちの肉体の命は創造主なる神様の御手に握られています。それがどれくらい永さがあるのかは誰も知りません。

しかし、私たちがこの地上でどれだけ長く生きたかということよりも、私たちの存在が永遠の存在であり、その時間と命をお造りになった神様の御手の中に自分が存在している者であることを理解することこそ重要なことなのです。そのことをある人は「信仰」と表現するかもしれませんが、「信仰」というよりも「真実」と表現した方が適切なのかもしれません。どうか、すべての人々が、その「真実」を知るに至りますように！

新生宣教団のニュースレターでは、未だに戦火の中にあるウクライナに入り込んで、18,600冊のウクライナ語の新約聖書をお届けした活動の報告が記されていました。ノルウェー⇒スウェーデン⇒デンマーク⇒ポーランド、そして、ウクライナに入り、西の街、リヴィウ市の人々に多くの粉ミルクや新生児用おむつも現地の医師の要請によって積み込んで聖書と共に持参したそうです。往復で4000kmだったそうです。これからも、11万冊のウクライナ語の聖書を届けるそうです。その他にも、北朝鮮向けの朝鮮語の聖書、ルーマニア語、セルビア語、ビルマ語、ヌクオロ語(ミクロネシアのポンペイ島で話されている少数言語)の聖書を今月印刷する目標であるとのこと。天国に行くまでに、私たちはどれだけの人々に福音をお伝えできるでしょうか？主の御業が前進するように祈りましょう！